平成30年度　第一回市町村議会議員セミナー

4/12~4/13日　　橋口正人

【講義1】静岡の観光戦略　(13:00～14:30) 兵庫県豊岡市長　中貝宗治

コウノトリのエサ場として重要な田んぼ

「コウノトリとり野生復帰」の取り組み
豊岡が一度は絶滅した野生動物を飼育下で繁殖させ、かつての生息地である人里に帰していくことは、世界にも例のない壮大なプロジェクトです。
膨大な時間とエネルギーとコストをかけて、豊岡が取り組み、目指していく。

冬期湛水

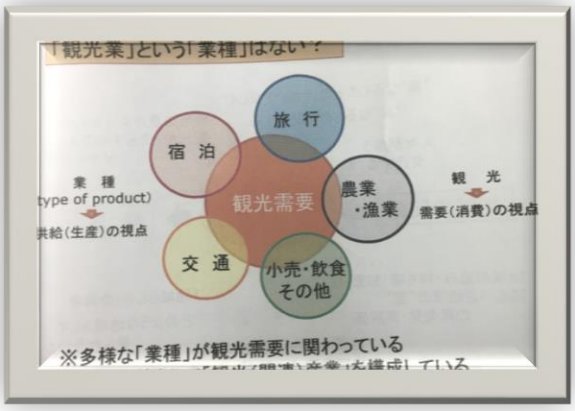
「コウノトリも住める豊かな環境」を作る
コウノトリは里の自然生態系の頂点に立つ肉食の鳥です。
　野外で生きていく為には、里山や田んぼ、川や水路に多様な生き物が沢山いる「自然環境」が必要です。
　また、私たちの心と体に深くしみ込んだ生活様式と価値観が環境を破壊しコウノトリを絶滅に追い込んできた、暮らしの中に受け容れていく「文化環境」を再生することも必要です。

【講義2】(14:50～16:20)　日本インバウンド連合会理事長　中村　好明

観光立国と醸す力
１若者・バカ者・よそ者・きれもの・本物
①　意識　　22世紀未来意識　　②　知識　③　勇気　実行→自信
④　元気　　協働　　⑤　景色　未来の現実

農家の人々は朝5時に起きて農作業(米仕事)をした後、午後には(花仕事)傷んだ橋の修理、用水路の浚渫、お祭りの準備などをする。
　糀の語源は動詞「かもす」の連用形「かもし」が転訛して「こうじ」になった。
　麹、すなわち醸す人こそが、地域でのインバウンド成功の鍵なのだ。それゆえ、花仕事と米仕事の両方にひたむきに取り組み、地元を醸し続けている優れた人々との出会いは、地元の美味しい酒とのめぐり逢いと共に、旅の至上の楽しみである。

【講義3】(9:00～10:30) 立教大学観光学部教授　東　徹
観光地域振興の在り方を考える
～観光は地域を元気に出来るか～



【もう一つの道の模索】
論点①　経済効果に偏重しすぎた地域振興でよいのか。
②誘致企業に依存した地域振興で、よいのか。
→地元の知恵や力を生かした自立的な地域振興に取り組むことはできないのか。
③大規模集客施設の整備だけが観光振興なのか。
→地域独自の恵みや持ち味を活かした観光振興はできないのか。

来るときは”ゲスト”帰る時には”ファン”に

ゲスト→ファン→さらに地域のサポーター
※観光の成果は
　入り込み数、消費額(量的な成果)だけではない。

観光　・地域の恵みや持ち味、知恵や技への共感を生み出す→地域ブランド構築
・交流人口から縁(ゆかり)人口へ
・住民の地域に対する誇りや愛着を育む

【講義4】(10:50～12:20)　　京都観光おもてなし大使　田丸　みゆき
京菓子老舗女将のとっておきのお話
☎　075)371-3333

ダルマのお菓子

～　京菓子老舗女将のとっておきのお話　～
・京都人のおもてなしを学ぶ　　・お菓子の前に京がつく理由
・京菓子を通じて日本の美意識を知る
・日本のお菓子には祈りが込められている
　5月5日のこどもの日、食べるお菓子・柏餅は日本が代々伝えてきた、お菓子です。
　柏餅は柏の葉っぱにつつまれている餅なのですが、柏の木は次の新芽が出てくるまで古い葉っぱが落ちないという縁起のいい木です。
　家を代々守っていく為に命をつないでほしいと思う親の気持ち、絶えさせない気持ちが込められ、子孫繁栄を願うお菓子ということで子供の無事な成長を願い、「子供の日」に家族に食べてもらう、お菓子であります。
　このような話を聞くと、ぜひとも。子供たちに伝統を教え食べて頂きたい。(お米一粒にも神様が宿っている・小豆は厄除け)